



新生JR東労組運動宣言

1987年3月3日、私たちは、東日本旅客鉄道労働組合（JR東労組）を結成した。国鉄改革の理念である「雇用の確保」「鉄道の復権」「新たな労使関係の構築」を実現するため、組合員の団結を強化し、たたかい抜いてきた。

結成33年。その道程は組織破壊とのたたかひの連続であった。その多くは、一部指導部の奢りと自己保身で組合員を引き回した結果である。

中央本部は、「18春闘」の大敗北から、その根拠を掘り下げ、組合員の気持ちを受け止めることができなかつたことを真摯に反省し、第46回定期中央委員会において、あらためて「新生JR東労組運動宣言」を提起し、組合員一人ひとりの意思としていくことを確認した。

全組合員のみなさん！

JR東労組運動の再生をかけて起ち上がろう！

1. 私たちは、時代認識を踏まえ、雇用の確保はもとより、すべてのハラスメント行為を許さず、賃金、労働条件、安全の向上のために職場現実を正しくつかみ、組合員とともに運動をつくり出します

1. 私たちは、取り巻く情勢を見定め、会社施策に対して職場現実を踏まえ、真正面から建設的な議論を行い、経営協議会や団体交渉などを通じて健全な労使関係をつくり出します

1. 私たちは、JR総連とJR総連に結集するすべての単組とともに、鉄道・バスなどの地域交通と安心して暮らせる社会を守るため、広く社会的な連帯をつくり出します

1. 私たちは、全地本の新たな総団結を実現し、JR東労組の旗の下に組合員を拡大するため、不正や虚偽、あらゆる組織破壊策動を許さず、真実を組合員に伝えることを通じて信頼回復に努めます

2020年2月10日
東日本旅客鉄道労働組合

委員会宣言(案)

JR東労組は2月10日、埼玉会館小ホールにおいて第46回定期中央委員会を開催し「新生JR東労組運動宣言」を確認した。全組合員で「新生JR東労組運動宣言」を基に、雄々しく進んでいこう。そして、20春闘をJR総連統一闘争として、JR総連に結集する仲間と共にたたかい抜いていく。

委員からの発言では、施策に対して真正面から向き合った職場からのたたかひが多く報告された。さらに、18春闘以降、厳しい組織現実の中、組合員だけでなく離脱を余儀なくされた仲間とも議論をつくり、その中でJR東労組の必要性・重要性を感じることで、業務課題を通じた組織強化・拡大をかち取ってきた実践が報告された。

不当労働行為を許さず、職場のたたかひを基礎に本人が立ち上がり、地方本部の団体交渉へ高め、たたかひをつくり出してきた。第三者機関依存ではなく、労働組合として、不当労働行為を許さないたたかひを職場からつくり出したことで不当労働行為を止めてきたことが自信を持って報告された。

また、組織問題について多くの発言があった。組織破壊策動が行われている中、今定期委員会の開催さえも不安に感じていたこと、組織分裂は誰も望んでいないこと、分裂策動で不安を抱えている仲間との対話などの実践が多く出された。

これまでの歴史から学ぶことの重要性が語られた。組織分裂は、ゼロではなくマイナスからのスタートでもあり、20春闘における統一闘争を破壊することでもある。JR東労組はあらゆる組織破壊策動を絶対に許さない。

今定期委員会を、水戸・東京・八王子地本の委員・傍聴者はボイコットした。組合員を裏切り、組織破壊者の道を歩み、争議団化していく者たちに未来はない。いつまでも一部役員によって良心的な組合員が振り回されている状況は断じて許されない。委員から嘘・誤魔化しでの組織化を許さず、不正を許さないという発言が出された。中央本部は、責任を持って全容を組合員に明らかにする。

「JR東労組東京地本を守る会」「組合員のためのJR東労組を守る八王子の会」が結成され、その仲間が今委員会に参加している。再生の道程が厳しいことは委員の発言でもあったが、水戸・東京・八王子地本でJR東労組として奮闘する仲間を全組合員で支え、再生させていく。

私たちは、時代認識を誤らず、JR総連に結集する仲間をはじめ組織破壊者を許さない仲間と共に、新生JR東労組運動に邁進する。全てのハラスメントを許さず、組合員の雇用と利益を守るため職場現実を正しく掴み、情勢を見定めた建設的な議論を行っていく。そして、鉄道・バスなどの地域交通と安心して暮らせる社会を守るために広範な連帯をつくり出す。組織強化・拡大の実践で新たな総団結を実現し、これからも組合員と共に運動をつくり出していく。これまで多くの仲間と共に築き上げてきたJR東労組を守り抜き、「新生JR東労組運動宣言」を全職場に掲げ全組合員で明るい未来を切り拓こう！

以上、宣言する。

2020年2月10日
東日本旅客鉄道労働組合
第46回定期中央委員会